

<運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	有限会社 在宅ナースの会	事業所名	複合型サービスふくふく寺前
所在地	(〒 236-0014) 横浜市金沢区寺前2-5-38		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 住み慣れた地域で最期までその人らしい生活ができるよう、職員の意識を高め合い支援していきます ・ 医療ニーズの高い方はもちろん、様々な状態・病状であっても在宅療養の支援とともにご本人、ご家族を含めた統合的な支援を行います ・ 地域との連携・協議・共存を目指し、地域の方々にとって開かれた場所づくりを目指しています ・ 24時間365日、臨機応変・迅速・柔軟なサービスで在宅生活の支援を行います ・ 職員研修や外部研修の参加を通して知識・技術の向上に努め質の高いケアを安全に実施できるよう日々研鑽に励んでいます

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2019年 12月 24日	従業者等自己評価 実施人数	(18) 人	※管理者を含む
----------------	------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020年 3月 12日	出席人数 (合計)	(10) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (____ 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 (1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者 (1 人) <input type="checkbox"/> その他 (____ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>○理念の徹底とサービスの質の向上を目指す ○職員間の情報共有・提供が円滑かつ迅速に行えるようにする ○職員の休憩時間を計画的に確保し心身ともに休まる環境を作る ○災害等、緊急時にサービス提供の継続ができる対応策の構築</p>	<p>①日頃実施しているサービスの質や人材育成、処遇改善等についてまとめ「神奈川認証」に応募した ②ミーティングノートを活用し既読後はサインをするように徹底した ③担当表に個々の休憩時間を明記し、確実に休憩が取れるよう時間調整した ④防災委員を中心とし、定期的な防災訓練の実施と防災用具・備蓄品の整備を行った</p>	<p>①神奈川認証事業所として認定され、日頃実施している内容が評価されることでスタッフのモチベーションの向上となり更に質の向上を目指す機会となった。 ②情報を自主的にとるように職員が意識できている ③利用者の状況で休憩が取れないことがあるが声掛けを行いながら取る努力はしている ④ 災害時の意識が高まっている</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<p>○看護職・介護職の両職種の円滑なコミュニケーションを図ることにより利用者・家族等の小さな変化に対応できるサービスの提供を目指す ○サービスの趣旨およびサービス計画の内容を利用者・家族等にわかりやすく説明し理解して頂く ○将来発生し得る多様なリスクを想定し終末期ケアにおいても安心して利用して頂き、利用者・家族等が相談・意見のしやすい環境を作る</p>	<p>①利用者・家族の状況はタイムリーに多職種で情報共有し、個々の状況に応じた対応ができるよう意識して行っている ②利用者・家族に対して、サービス内容について具体的な事例を用いてわかりやすく説明を行った ③ACP用紙を活用し、今後起こりうるリスクや希望について互いに共有することができた</p>	<p>① 利用者・家族が安心して利用できている ② 利用開始後のトラブルはない。 ③ACP用紙の活用で、情報の幅が広がり、職員全員で共有することができた。</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>○多職種との連携により多種多様な支援ができるようにする。 ○全ての利用者の緊急時対策を医療機関と連携するとともに関わる全職員が対応可能な体制づくりをする。</p>	<p>①多職種が持つ特殊性を最大限発揮できるよう意識した ②身体の状態を日々連絡ノートや電話連絡で状態経過を共有している</p>	<p>①当事業所の利用につながらないケースも、様々なサービスの紹介や提案ができており、地域の中での役割が果たせている ③ 情報を共有し、全職員が対応可能な状態となっている</p>	

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>○喀痰吸引・人工呼吸器・看取りと専門的なサービスが必要な利用者の受け入れができる体制を維持し積極的に受け入れる。 ○継続的な研修を行い、看護小規模多機能型居宅介護のサービスの特徴および趣旨を熟知していく。</p>	<p>①資格習得研修に積極的な参加を促し専門的知識の向上に努めている ②社内研修や外部研修を通して看護小規模多機能型サービスの地域における役割を理解し実践している</p>	<p>①資格習得の研修に参加することで、自信を持ってサービスの提供ができるようになっている ②地域・外部へのアピールが積極的にできるように努力が必要</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>		<p>○サービスの提供により、利用者・家族が在宅生活を送る中で継続的な支援を行い、終末期においても安心して過ごしていただける体制を構築していく。</p>	<p>終末期の方、医療依存度の高い方、認知症の方のご家族が地域で安心して在宅生活を送れるよう各関係機関との関わりを密にとり、総合的に支援していく</p>	<p>各関係機関との連携を密にとることで、どのような状態の利用者でも安心して利用できるような事業所の位置付けとなっている 看護小規模多機能居宅介護事業所としての質の向上に今後も努力が必要である</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ① サービスの質の向上、スタッフのモチベーションの向上と質の向上につとめている。 ② 情報の共有や提供が問題なく行えるように努めている ③ 利用者の状況で休憩が取れないことがあるが声掛けを行いながら取る努力はしている ④ 災害時、緊急時にサービスが提供できるように対応策を検討している 	<ul style="list-style-type: none"> ① サービスの質の向上ができるよう努力し、個々に年間目標を立てる ② 職員間の情報の共有や意見の提示が円滑かつ迅速に行えるようにする ③ 心身ともに休まる時間の確保と場所の提供づくりに努力する ④ 災害発生時の対応について訓練のみならず日ごろの災害意識、対応が重要となる為、高い意識が持てるような働きかけが必要 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ① 日頃から利用者家族との連絡を密にとり利用者・家族が安心して利用できている ② 利用開始後のトラブルはない。安心して利用できている ③ ACP 用紙の活用で、情報の幅が広がり職員全員で共有することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ① 日々利用者・家族とコミュニケーションを持つことで、きめ細やかな対応ができ、小さな変化にも気づけるような関係性の構築 ② 利用者・家族が利用内容を理解し、安心して利用できているようわかりやすく説明する ③ ACP で利用者・家族の予後予測への考えを共有しあうことで、安心して利用でき意見できる環境を作る
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ① 主治医、薬剤師、理学療法士等多種多様な連携が取れており、地域の中での役割が果たしている ② 緊急時の対応について情報を共有し、全職員が対応可能な状態となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者・家族を取り囲む主治医、薬剤師、理学療法士等多種多様な支援ができるようにする ② すべての利用者の緊急時対策を医療機関と連携し、希望に沿った対応ができるよう、全職員で対応可能な体制づくりをする
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ① 資格習得の研修に参加することで、自信を持ってサービスの提供ができるようになっている ② 専門的なサービス提供ができるよう必要な体制を維持し積極的に受け入れることができています ③ 定期的な研修を断続的に行い努力している 	<ul style="list-style-type: none"> ① 喀痰吸引や認知症研修など、専門的な資格の習得ができるよう支援している。 ② 人工呼吸器・終末期の受け入れができる体制を保持し、積極的に受け入れていく ③ 定期的な研修を継続的に行い職員の質の向上に努める
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	利用者・家族が安心して在宅生活が継続できるよう努めている	医療依存度の高い利用者が、家族と住み慣れた地域で安心して生活を継続できる体制を構築し、質の高いサービスの提供ができるように全職員が意識を高める	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりでき ていない	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	1 2	6	0	0	特になし	・利用者が安心して過ごすことができるよう日頃から生活機能の維持・回復を目指し意欲の出る居心地の良い場所づくりを理念に挙げている。
		[具体的な状況・取組内容] ・本人、家族の希望に出来る限り添い、住み慣れた地域で生活を続ける事が出来ている。 ・呼吸器装着の方、癌末期の方の支援を積極的に行っており、ご家族の介護負担軽減につながっている。 ・安心して過ごす事が出来るような『居心地の良い場所づくり』を掲げ、医療ニーズの高い方への体制作りが出来ている。 ・在宅でも安心して過ごせる様に、退院後の受け入れも行っています。理念に基づき居心地の良い場所を心掛けています。 ・医師、看護師との連携がとれている。細かい事もご家族と密に連絡を取り合っている。泊りの受け入れ等でご家族の介護負担が軽減できている。					
2	サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1 2	6	0	0	職員の方がいつも笑顔で迎えてくれる	・理念を廊下・事務所に掲げることでにより職員全員が意識・理解し実践できるようにしている。
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者様が楽しんで過ごして頂けるよう、スタッフ全員が配慮出来ている。 ・笑顔で分かりやすい言葉で接している。 ・事業所内の目の届く場所に掲示してあり、常に意識しサービス提供に繋がっている。 ・笑顔を心掛けています。					

(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	3	11	3	1	特になし	・事業所の新人研修の年間計画に則り計画されている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・おおよそ出来ているが、個人目標を定められるとなお良い。 ・新人社内研修を実施している。 ・その人にあつた外部研修を勧めている。 ・各職員の中期的な育成計画を作成している様に感じない。					
4	法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	10	7	1	0	*喀痰吸引の研修や社内研修にも取り組んでいる様子がわかる。	・喀痰吸引や認知症実践者研修への参加をしている。 ・希望すれば病院が開催する不定期な研修にも参加ができる。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修には積極的に参加している。自己啓発に努めている。 ・研修案内のお知らせ等、掲示されており個々に参加している。 ・定期研修会に参加できていない状況(家族の状況により)だが、今後は家族の理解を得て参加したい。 ・年に6回社内研修があり出席すると手当が出る。感想を書くことで勉強になり共有出来る。 ・喀痰吸引等の研修も確保され、質の向上に繋がっている。 ・認知症実践者研修にも順番に受講している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	12	5	1	0	職員間の隔たりを感じないような明るい雰囲気があり、情報の共有もスムーズに感じる。	・毎朝ミーティングが30分行われている。 ・各々の事業所が解放されており話しやすい環境になっている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ミーティング内で看護、介護、ケアマネ、三者の情報共有が行えている。 ・朝のミーティングでの情報共有が出来ている。参加出来ないスタッフ等の為、ミーティングノートの活用をしている。					

(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	6	10	1	1	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の内容を伝達し、共通の理解をするとともに、要望や助言等も今後のケアに生かすべく話し合われている。
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報等を活用しイベントに参加している。防災についての情報収集等を行っている。 ・地域の様々な方からの意見が交換されておりサービスに繋がっている。 ・会議で得た意見等はミーティングにてしっかり申し送り、サービスへ反映出来ている。 					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	3	12	3	0	休息は良い仕事を行う上で大切です。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用人数が多い日や、重度な方が多い日には職員の配置に配慮している。 ・喀痰吸引研修に参加している。 ・介護度が高い利用者が多いのでケアに不安を感じることもある。 ・私的なことでも休暇やシフトの変更が柔軟に対応できるので安心して働ける環境になっている。
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい環境作り。積極的な資格取得支援。人員不足。 ・利用者の多い日や、重症、急変の可能性のある利用者の受入れ日はスタッフの配置人数を多くしている。 ・希望する勤務時間で仕事は出来ているが、休憩は十分にとれていない現状がある。 ・希望の休みがとれるよう努力してくれている。お互いに譲りあい休みがとれている。 ・個々の家庭の状況に合わせた働き方の支援に対応している。 ・公休がしっかりとれるようにシフトを作っている。 ・今まで大体は休憩がとれていたが、最近スタッフが減ってからは休憩が短い日があります。時間内に仕事が終わらない日があります。 ・休憩時間の確保、有給休暇の取得等、就業環境の整備は少しずつ改善している。 ・離職率が高めで慢性的な人手不足が気になっている。 ・怪我の時に傷病手当等の手続に迅速な対応で動いてもらいとても助かった。 ・分からない事や不安な事に対して相談できる。 					

(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	8	10	0	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りノートがしっかりと活用されている。 ・新しい情報はすぐに職員に伝達している。 ・ミーティングの時間がもう少し取れると言い。
[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・言葉だけで伝えず大切な事はメモに残したりして伝える。 ・申し送りノートやミーティングでの情報を共有している。 ・スタッフからの情報提供により行えている。 ・日々、常に変動がある為ミーティングでの活用と、業務中での変更更新等は、フロア一責任者、その日のリーダーを中心に迅速に情報伝達がされている。 							
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	8	8	1	0	常に話し合いだけではなく、最悪を想定した対応を検討しておく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全マニュアルが目につきやすい場所においてあり意識している。 ・ヒヤリハット・事故報告については迅速に話し合っている。 ・感染症予防対策の情報が必要な時に迅速に対応できている。
[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・事故報告やヒヤリハットをミーティングで共有し対策を立てる。大きい小さいに関わらず事故を検討する事で、再発防止を行っている。 ・インシデント、ヒヤリハット等、朝のミーティング以外でもその都度報告し話し合いがされている。 ・研修会の実施、参加できなかったスタッフへは文書で呼び掛け、内容についての感想、学びの提出の徹底。 ・事故等の対応マニュアルがある。 ・緊急時の連絡体制が出来ていて、紙面でも事業所内に掲示している。 							

② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1 3	4	1	0	<p>災害時には協力体制が重要で互いに助け合わないといけない。</p> <p>災害の予測はできないのだから、常に最悪の事態を想定した訓練を日ごろから意識して行う必要がある。</p> <p>実際の災害があった時に日ごろから訓練をしていると自然と対応できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な防災訓練がある為、緊急時の不安は軽減されている。 各事業所に防災委員がおり緊急連絡体制も掲示し周知している。 町内の防災訓練にもできる限り参加し、情報共有ができるようにしている。
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	1 2	6	0	0	<p>家族にとってとても安心できる体制ですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて休日や夜間でも訪問を行い 24 時間体制で支援している。 介護力に応じて宿泊のみならず、夕食後の送迎を行っている。 家族からの情報が得られない場合は親戚や民生委員などからの協力も得ている。
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護、介護が共同して 24 時間体制で支援出来ている。 ・利用者・ご家族共に 24 時間体制であることを把握されている。 ・記録、計画書に目を通すよう心掛けている。 ・訪問して状況把握をしている。 ・介護者の状況によって泊りだけではなく、夕食を食べて帰る事や、早くお迎えに行く等、個別の対応が行えている。 							

12	介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	9	7	2	0	特になし	・看護、介護職のコミュニケーションがしっかりと取れている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ミーティングで共有出来ているが、十分ではない。 ・声掛けをしながらヒヤリハット、インシデントを防いでいる。風通しの良い職場、共有している。 ・管理者、サービス責任者を中心に連携がとれている。					
③ 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	12	6	0	0	特になし	・個別のファイルが作成されており見直しもできている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ACPを利用する事で本人、家族の意向が確認出来ている。 ・訪問や電話でも意見を聞き、把握することが出来ている。 ・アセスメントを大切にしており、利用者家族の考えを含めた計画となっている。					
14	利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	5	13	0	0	個々の計画に記載されている	・利用者にあつたリハビリが看護職により行われている。 ・車いすに頼らず、少しでも自力で歩く時間を設けている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・リハビリが十分に行えていないが、日常生活を行う中でのADL向上は図れている。 ・ADLの低下しないように全体体操の他にも看護師によるリハビリ(ストレッチ)等を行っている。 ・身体機能の維持回復の為、機能訓練を取り入れている。専門職(PT・OT・ST)がいれば良いと思う。 ・ストレングスを常に考え計画の作成にあたっている。また、生活リハビリを意識した計画となっている。 ・自立支援を目指し、日常生活の継続に繋がる計画を作成している。					

③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成						
15	利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	8	10	0	0	<p>主治医の先生と連携が取れているのは、ご家族ご本人にとっても安心。</p> <p>・状況変化の予測とリスク管理は日常的に行い、主治医に報告・相談・事前指示をもらうなどケアマネと共にやっている。</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えられるリスクは家族と共有している。計画に反映している。 ・常に状態を把握し、主治医、管理者、ケアマネ等に相談しながら行っている。 ・主治医や看護、多職種との連携、情報共有により予後予測を踏まえ作成変更をしている。 				
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践						
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映						
16	サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	9	9	0	0	<p>柔軟な対応が求められている。</p> <p>日々のケアの中で小さな変化を見逃すことがないように適宜注意し看護にも申し送っている。病状の変化により計画の変更が必要な時には適宜計画の立て直しを行っている。</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態の変化にはタイムリーに対応し、変更の必要があれば計画変更を行っている。 ・看護計画の評価を月1回行い再作成している。 ・ケアマネを通して計画を立て直している。 ・状況変化への迅速な対応が来ている。介護、看護より変化があった時にはすぐに情報共有し、対応策が話し合わせ、計画へ反映出来ている。 				
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映						
17	通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	7	10	1	0	<p>いつも顔なじみのスタッフ、同じ場所での宿泊が利用者にも安心感を与えている。</p> <p>・送迎時にも一日の様子を家族に伝え、話すことにより家族の状況を確認することができる。</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問し自宅での様子を確認すると共に、ふくふくでのご様子を伝えている。 ・自宅、ふくふくで情報交換し把握できている。 ・訪問以外にも送迎時家族と話す機会も多く、生活状況を1日1日把握する事が出来ている。 ・必要に応じ訪問を行っている。状況に応じて泊りを行ったりと柔軟です。 ・泊りを全く希望されない利用者様もいるが体調変化等に合わせたの泊り利用等、生活状 				

		況の把握に努めるようにしている。					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	16	2	0	0	日ごろの報告から連携が取れている様子がわかる。	・利用者家族の希望、目標の阻害要因となり得る状況の変化等には、すぐに家族・主治医委・関係機関に報告し対策が検討される。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護師、ケアマネが同席し、家族、主治医との情報交換を行っている。 ・家族、医療機関等に報告し共有が出来る。 ・主治医を含む多職種との連携、情報はリアルタイムで連絡をとる事が出来ている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	15	3	0	0	分け隔てなく協力体制ができています。	・介護職が専門的な研修を受けることにより可能となっている。 ・それぞれの分担表を作成し、更なる効率化も望める。 ・労いの声掛けも怠らずにやっている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・それぞれの職種が協力してケアに当たっている。 ・専門職として役割をいかせている。 ・それぞれの職種が自身の役割を認識し行動出来ている。また、手の空いた時には声掛けし協力出来ている。					
20	利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	14	4	0	0	特になし	・お互いに頼みやすく、声をかけやすい職場環境になっている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・事故防止につながる為、積極的に共有している。 ・お互い協力し理解しあい関わる事が出来ている。 ・一人一人の利用者の情報は細かい事も話し合い共有している。 ・ミーティングを活用し情報共有の中、対応策についても検討が出来ている。					

③ 看護職から介護職への情報提供および提案								
21	看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	1	5	3	0	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・排便のコントロールや褥瘡などの対応策の提案がしっかりとされている。 ・看護職からいつでも情報の提供が受けられる体制ができている。
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・病状の予後についてや変化にはタイムリーに介護職に伝えている。 ・その都度病状により説明を行っている。処置の内容に関しても説明している。 ・夜勤スタッフ（介護職）への引継ぎ時、薬の副作用、病状の予測についても伝え連携している。 ・新規の開始前より病状の予後予測や注意点等しっかりと情報共有し安心して迎え入れる準備が出来ている。 						
(4)利用者等との情報及び意識の共有								
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供								
22	サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	8		9	1	0	制度を理解するのは一般の人にはなかなか難しいことと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なケアプランを見ていただき、様々な利用方法を提案し理解していただけるように取り組んでいる。
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・様々な利用方法を提案している。 ・サービス提供の範囲、可能な事不可能な事を伝え理解して頂けるよう努めている。 ・見学时、契約時以外でも適時対応している。また、個々に合わせて分かりやすい説明を行い同意を得ている。 ・認知症の方もいる為、全ての利用者様の理解に至ってない事がある。 						
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明								
23	作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	9		8	1	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・納得していただけるまで丁寧に説明を行い、同意を頂いている。
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく説明されている。 ・変化や更新等に合わせて訪問し、説明と同意を得ている。 ・認知症の方もいる為、全ての利用者様の理解に至ってない事がある。 						

24	利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	1	6	1	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問後に取り扱いや手技が理解できているか確認を怠らずにやっている。 ・定期的なアセスメントもやっている。
④ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有								
25	利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	1	4	4	0	0	ご家族・ご本人の安心につながるケアを目指してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・点滴の継続や胃ろうへの対応など。 ・看取りの不安・負担軽減のために家族との話し合いの場を設けている。
26	在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	8	1	0	0	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の説明の元、不安なく最期を見送れるよう傾聴し記録している。
27	終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	14	4	0	0	0	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の説明の元不安なく最期を見送れるように傾聴し記録している。

2. 多機関・多職種との連携								
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供								
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行								
28	病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	1	4	4	0	0	特になし	・すべての利用者の主治医より指示書を頂き、毎月報告書を出し連携が取れている。
		[具体的な状況・取組内容] ・カンファレンスに参加し情報を得ている。退院前には状態の確認を行っている。 ・退院時カンファレンスにおいて情報共有、今後の課題、留意点等連携が出来ている。						
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有								
29	すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	1	2	6	0	0	特になし	・すべての利用者の主治医より指示書を頂き、毎月報告書を出し連携が取れている。
		[具体的な状況・取組内容] ・緊急時の連携を図っている。状態変化等その都度報告し共有出来ている。 ・病院、主治医、看護師等との連携をとっている。 ・看護を中心として、主治医との連携、情報共有、事前相談出来ていて迅速な対応が出来ている。						
④ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築								
30	地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	4	4	0	0	特になし	・利用者個人の連絡先がすぐにわかるようにしてあり対応が一目瞭然である。 ・状態の変化が予測できる利用者は早めの対応を取るようになっている。
		[具体的な状況・取組内容] ・利用者のファイルに一目で分かるように連絡先が記されている。夜勤者にも申し送り、早めの対応出来るように引き継いでいる。 ・長期休み前等に医療機関の緊急連絡先等を確認している。 ・緊急時等の受け入れ態勢が構築されていて迅速な対応に繋がっている。						

(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	10	7	1	0	特になし	・包括支援センター職員・町内会長・民生委員などの方々に出席していただき、様々な情報提供や提案が行われている。
		[具体的な状況・取組内容] ・地域の活動状況がわかる意見交換が行われている。 ・2ヶ月に1回実施されており、提供実績の報告だけではなく、地域の情報意見交換が行われている。					
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	13	3	2	0	特になし	・介護後にはすぐに報告書を作成しファイルし閲覧できるようにしてある。また、翌日のミーティングにて会議の内容を報告している。
		[具体的な状況・取組内容] ・会議で話された内容についてミーティングで報告されている。 ・記録は毎回ファイリングし、誰でも見る事が出来るよう周知している。					
33	サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	7	8	3	0	地域の中での助け合いが大切です。	・地域住民のボランティアの方々にもサービスの周知を図っており、地域の中での行事にも参加しその際説明も行っている。
		[具体的な状況・取組内容] ・地域への広告はしていない。 ・事業所のイベント（敬老会、クリスマス会等）に地域住民（町内会長、民生委員等）をお招きし、活動状況を見て頂く事でご理解とご協力を得られていると思う。 ・イベントに参加して頂いたり、こちらからも地域のイベントへ参加し理解を深めるよう活動している。					

(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	2	9	4	3	これからも相談や依頼が増えると思います。	・地域住民の方からの依頼は積極的に受ける方向で検討している。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・人員的に難しいと感じる。 ・登録者以外への訪問に対し看護体制が整えられていない。 ・環境は整っているが、現在依頼はない。					
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	18	0	0	0	特になし	・吸引器は十分な数を用意して対応できるようにしている。 ・現在、吸引が必要な利用者が多いが安定したサービスが提供できている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修へ積極的に参加させている。 ・介護士は喀痰吸引研修を受講し、看護師は常時指導している。 ・喀痰吸引研修を修了している職員が多く配置されている。また、看護職員の配置体制が整っている。					
36	「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	16	2	0	0	特になし	・「人工呼吸器」を在宅で利用している方が、宿泊や通所を利用していくことを具体的に考えると、送迎や移動など環境的に難しいかと思う。今後、具体的な対策が必要な案件ととらえている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・安心して通いサービスが利用出来るよう支援しています。 ・看護、介護が協力し安全な入浴も実施できている。ADL 全てにケアが必要だが支援出来ている。					
37	「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	17	1	0	0	今後さらに依頼が増えると思われます。	・看取りに対する職員の意識が高く、事業所の役割として理解できている。 ・主治医・看護師・介護職と連携が取れる体制にあり積極的に受け入れている。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・その役割を遂行出来ていると感じています。 ・最後まで安心して利用頂けている。 ・安心して看取りの出来る体制が整っている。					

(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	3	1 3	2	0	特になし	・管理者がミーティング等で地域包括ケアの重要性を説明している。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修などに参加し看多機の役割等の理解に努めている。					
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	1 5	3	0	0	特になし	・特定の集合住宅に限定しておらず金沢区全域でのサービスを提供している。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・特定の集合住宅に限定したサービスは行っていない。 ・送迎時間等、利用者様の負担を考慮して対応しています。 ・送迎時間等も本人家族の希望に沿ったサービスが行える。 ・限定せず積極的に提供できている。同区内でも広範囲で提供出来ている。					
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	3	1 2	3	0	特になし	・必要に応じてボランティアやインフォーマルなサービスに結び付け、環境の整備や見守り等の提案で改善できた事例がある。
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・地域と協力した避難訓練の実施。 ・地域での多職種の会議や研修、集まりへ積極的に参加している。 ・運営推進会議でも地域の方々の情報共有や提案が行われている。					

41	家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	6	10	2	0	特になし	・実際に自宅に訪問し主義の確認・指導をしたり、事業所に来ていただき手技伝達を行っている。
		[具体的な状況・取組内容] ・地域への広告活動は余り行っていない。 ・アドバイスや指導助言を適時行い、介護力の引き出しや向上に繋がっている。					
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない				1. 10 2. 7 3. 1 4. 0	・利用者・家族の状況変化により日々変わってくるが、柔軟に対応し目標に向かって支援している。
		[具体的な状況・取組内容] ・立てられている。 ・利用者、家族の状況変化を見逃す事なく、目標に向けて支援している。 ・個々に合わせた柔軟な対応が出来、目標達成に繋がっている。				特になし	

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具合の悪い時は泊りを追加し、身体状態の管理に努めています。 ・多職種と連携がとれており安心感が得られている。信頼関係も得られている。 ・今まで看取った家族からの感謝のお気持ちが届いている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 11 2. 7 3. 1 4. 0 <p>特になし</p>	<p>・医療依存度の高い利用者家族でも安心して在宅生活が送れるよう対応している。</p>
44	サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅への訪問を集中的に行い、家族に対し安心感が得られるよう支援しています。 ・事業所への信頼と共に安心感が強く得られている。 ・介護力等から自宅での看取りが困難な場合は、ふくふくで安心して看取りが行えるようにしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 17 2. 1 3. 0 4. 0 <p>特になし</p>	<p>・自宅にいるような雰囲気の中で安心して過ごしていただける様、心温かいケアを提供できておりまた、感謝の言葉も多く頂けている。</p>